

いじめを生まないための小学校用指導資料

心を耕す

～子どもたちの心豊かな成長を願って～



平成20年(2008年)3月
山口県教育委員会

本資料の活用にあたって

「いじめは人間として絶対に許されない行為である」という認識のもと、各学校では、いじめの未然防止、早期発見・早期対応の取組に尽力しておられることと思います。

本資料は、各学校におけるいじめの根絶に向けた取組の一助になればとの思いから作成いたしました。下記事項に留意し、積極的に活用くださるようお願いいたします。

記

1 作成の趣旨

いじめ問題の根絶に向けては、いじめの早期発見・早期対応はもとより、未然防止の取組が何よりも重要である。

そのためには、小学校の早い段階から、子どもたちが互いの違いを理解するとともに、よさを認め合う中で、思いやりの心やいじめを許さない心情を育成することが大切である。また、「これはよくないことだ」と判断できる力や、他者の痛みを感じる力、いじめられる子の周囲の子どもが「だめだ」と言える力などを、日常生活のあらゆる場面で具体的に発揮できるよう支援することが求められる。

このため、県教委では、道徳の時間を活用した指導資料「いのち・なかま・やくそくを大切にする心を育む学習プログラム『みんなちがってみんないい』」、いじめへの対応等を示した「問題行動等対応マニュアル」、家庭への啓発資料「家庭向け『いじめ対応』リーフレット」等の作成に取り組んできたところであるが、各学校においては担任を中心とした日々の指導が最も重要であることから、日常生活の中で発生している友人間のトラブル等の具体的な場面を取り上げ、道徳の時間や終わりの会などを活用して担任等の思いを伝える一助とするため、本資料を作成することとした。

2 活用方法

- (1) 学級内でさまざまなトラブルが発生した際などに、終わりの会等において活用する。
- (2) いじめ問題を考えさせる道徳の時間の導入部分などにおいて活用する。
- (3) 学年集会等において、生徒指導担当者等による講話資料として活用する。
- (4) 友人間のトラブルやいじめに関わった児童への個別指導の際に活用する。 など

3 留意事項

- (1) 本資料は、「児童用資料」と「指導の流れ」を掲載していますが、あくまでも一例であり、指導者の思いや状況に応じて、ねらいや指導の流れを変更してください。
- (2) 本資料の活用にあたり、学級の中で現にいじめが起こっている場合は、活用の時期や方法等について十分配慮してください。
- (3) 本資料は、記載順に活用する必要はありません。各学級（学校）の状況により、取り上げる題材を選定してください。
- (4) 本資料には、児童名等の固有名詞が含まれています。各学級（学校）で活用する際には、必要に応じて、資料中の児童名を変更するなどの配慮をお願いします。（電子データでも送付しています）
- (5) 児童の発達段階に応じて、「低学年用」「中学年用」「高学年用」の3種類の資料を作成していますが、各学級（学校）の実態に応じて資料を活用してください。

目 次

登下校時

1 早くしてほしいけど・・・ 低①

(場 面) 登校時、毎朝友だちに待たされる

(ねらい) 相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝える方法を知らせる

2 楽しく話がしたい・・・ 中①

(場 面) 3人で下校中、自分だけ仲間はずれにされている

(ねらい) 仲間はずれにされた寂しさを理解させ、友だちを大切にする心情を育む

3 きちんとつたえるには・・・ 低②

(場 面) 下校時、毎日カバンを持たされる

(ねらい) 自分だけで悩まないで、周りの人に相談してよいことを知らせる

4 行こうか、断ろうか・・・ 高①

(場 面) 学校の帰りに、友だちに寄り道しようと誘われた

(ねらい) 他者との関係を大切にする中で、自分で正しく判断し、実行する力を身に付けさせる

始業前、業間

5 仲間に入れてよ・・・ 高②

(場 面) 友だちに話しかけても、仲間に入れてくれない

(ねらい) 仲間はずれという行為の理不尽さに気づき、いじめを許さない心情を育む

6 ぼくのせいじゃないのに・・・ 中②

(場 面) 友だちとふざけていたら、花びんを割ってしまった

(ねらい) 自分の非を素直に認め、きちんと謝ることの大切さを理解させる

7 すぐにあやまりたかったけど・・・ 低③

(場 面) 走って教室に入ろうとしたら、人とぶつかった

(ねらい) 自分の非を素直に認め、きちんと謝ることの大切さを理解させる

8 本当は断りたいのに・・・ 高③

(場 面) 授業が始まる前に、友だちから宿題を見せてと頼まれた

(ねらい) 相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝えることの大切さを理解させる

9 これくらい、いいかな? 中③

(場 面) 学校にゲーム機を持ってきて見せびらかしている

(ねらい) 「いけないことはいけない」と正しい判断ができるようにさせる

10 言わなくてもいいのに・・・ 中④

(場 面) 悪口を言ったことがその人に伝わっていた

(ねらい) 先入観で人を判断したり、人の不利益になる情報を安易に流したりしないようにさせる

授業中

11 「やめて!」と言えなくて・・・ 低④

(場 面) 授業中に後ろの人から鉛筆でつつかれる

(ねらい) 相手の嫌がることをすることは許されないことを理解させる

12 回そうか、止めようか・・・ 高④

(場 面) 授業中、クラスの一を無視しようという手紙が回ってきた

(ねらい) いじめは絶対に許さないという心情を育む

13 もう発表なんかしたくない・・・ 高⑤

(場 面) 発表して間違えたとき、皆に笑われた

(ねらい) 間違いや失敗を温かく受け入れる集団の大切さを理解させる

14 ちょっとかりただけなのに・・・ 低⑤

(場 面) 消しゴムを勝手に使ってけんかになる

(ねらい) 自分勝手な行動を慎み、友だちと仲よく生活することの大切さを理解させる

給食時間

15 どうして意地悪するの? 中⑤

(場 面) アレルギーのために食べられない卵がたくさんつがれていた

(ねらい) 相手に嫌な思いをさせることをしてはならないことを理解させる

16 みんなになんてあやまろうかな？ 低⑥

(場 面) 給食準備の時、カレーの入れ物をひっくり返してしまった

(ねらい) 失敗を責めるのではなく、皆で助け合うことの大切さを理解させる

中間休み、昼休み

17 仲よく遊ぶためには・・・ 中⑥

(場 面) 昼休み、ブランコで遊んでいたらかわってと言われた

(ねらい) 相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝えることの大切さを理解させる

18 先生に言ったほうがいいのかな？ 低⑦

(場 面) 家からゲーム機を持ってきている

(ねらい) 善悪を判断し、正しく行動できるようにさせる

19 おかしいと思うんだけど？ 高⑥

(場 面) 鉄棒で遊んでいると、上級生に譲れと言われた

(ねらい) 自分で正しく判断し、適切な行動ができるようにさせる

20 勇気を出して・・・ 中⑦

(場 面) いじめの場面で、勇気を出して注意した

(ねらい) 集団の一員として、不適切な言動を皆で正すことの大切さを理解させる

掃除時間

21 ちゃんとそうじしてよ・・・ 低⑧

(場 面) 人に任せて掃除をしない

(ねらい) 皆で協力し、任された仕事は責任をもってやり遂げるようにさせる

22 早く帰ってきてよ・・・ 高⑦

(場 面) 掃除時間、ゴミ捨てに行ったままなかなか帰ってこない

(ねらい) 他者の立場を理解し、物事を協力してやり遂げることの大切さを理解させる

各種行事

- 23 ひとりぼっちはさびしい・・・ 低⑨
(場 面) 遠足で友だちと一緒に弁当を食べられるかどうか不安に思っている
(ねらい) 友だちに素直な気持ちで接することの大切さを理解させる
- 24 みんな、ゴメン・・・ 高⑧
(場 面) 運動会のリレーでバトンを落としてしまった
(ねらい) 一つの目標に向かって、皆で協力・団結することのすばらしさを理解させる
- 25 せいいっぱいやっているのに・・・ 中⑧
(場 面) 笛がうまく吹けないことを皆から責められる
(ねらい) 皆で協力し合って一つのを創り上げる大切さを理解させる

その他

- 26 だれが書いたの・・・ 高⑨
(場 面) 自分のブログに中傷する書き込みがあった
(ねらい) インターネット上の基本的なルールやマナーについて理解させる
- 27 仲よくしたいのに・・・ 中⑨
(場 面) 言葉の違いから、転校先の学校に馴染めない
(ねらい) 互いの違いを理解し、尊重し合う心情を育む
- 28 ぼくにおしつけないでよ・・・ 高⑩
(場 面) 自分の意見が言えないまま係が決まってしまった
(ねらい) 一人ひとりを尊重する集団の大切さを理解させる
- 29 さそってくれないかな？ 低⑩
(場 面) 教室で、皆の輪からはずれて、ひとりぼっちでいる
(ねらい) 周りの人にもしっかり目を向け、皆で楽しく過ごす方法を考えさせる
- 30 何でそうなるの？ 中⑩
(場 面) サッカーの試合に負け、メンバーの心が離れた
(ねらい) 相手の気持ちを尊重した言い方の大切さを理解させる

題 材 「行こうか、断ろうか・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

他者との関係を大切にする中で、自分で正しく判断し、実行する力を身に付けさせる

2 場面設定

学校の帰りに、友だちに寄り道しようと誘われた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、こんな経験はありませんか？

友だちから誘われたときに、自分だけ断るのは勇気がいるよね。

みなさんだったら、こんなときどうしますか？

□ まず、「一緒に行く」という人がいると思います。でも、学校の帰りに寄り道をするのは、よいことではありませんね。

みなさん、「集団心理」(板書)という言葉を知っていますか？

「明らかに間違っている内容でも、大勢が賛成すると反対する人が次第にいなくなる」という実験結果があるそうです。間違っていると思っている人も、大勢の意見に次第に流されてしまうというのです。

これ、怖いと思いませんか？

□ 次に、「自分には行かない」という人がいると思います。寄り道をしないことは正しい判断ですが、自分だけ断るのは勇気がいるよね。

では、どうすればいいのかな？

例えば、「次の休みの日にみんなで行こう」と、提案するというのはどうでしょうか。

これだと、誰も寄り道をせずに、みんなで休みの日に楽しく遊べそうだね。

□ みなさんは、これからも、いろいろな集団の中で生活していきます。

友だちとよい関係を保ちながら、何が正しくて、何が間違っているのか、自分で判断し、実行できる人になってほしいと願っています。

行こうか、断ろうか・・・

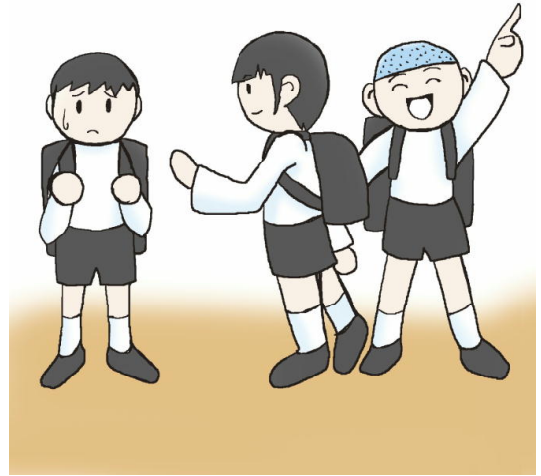
自分だけ行かないのも悪いし
寄り道はダメとされているし・・・

今日は、5時間授業で、いつもより早く終わりました。

ぼくは、仲よしのあきら君とひろし君といっしょに帰ることにしました。

とちゅうで、この前の日曜日にいっしょに公園で遊んだことで話が盛り上がり、これから行ってみようということになりました。

でも、ぼくは、お母さんに「寄り道はダメ！」ときつく言われているし、行こうか、断ろうか迷っています。



あきら 「ちょっとくらいならいいだろ！」

ひろし 「夕方までに帰ればだいじょうぶだよ。」

ぼく 「でも、いつも寄り道するなとされているし・・・」

あきら 「見つからなければおこられないって。」

ひろし 「行こう、行こう！」

ぼくは、どうすればいいのかな？

題 材 「仲間に入れてよ・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

仲間はずれという行為の理不尽さに気づき、いじめを許さない心情を育む

2 場面設定

友だちに話しかけても、仲間に入れてくれない

3 指導の流れ

(プリントを配付し、全部読む。)

今日は、このプリントを使ってロールプレイをやってみましょう。
登場人物は4人です。班の中で役割を決めてください。

役割は決まりましたか？

それでは、自分の台詞や動きをそれぞれ確認してください。

役割を交代しながら、先生が合図するまでやってみましょう。

それでは、最初の所を読みますので、その後が続いて、各班ロールプレイを始め
てください。(各班一斉に始める)

それでは、みなさん、前を向ってください。

「みか」の気持ちはどうでしょう？「なぜそんなこと言うの？」という気持ちもあるし、仲間はずれにされた寂しさや辛さも感じていることでしょう。最後には何も言えなくなっていますね。

「あや」「さき」は、わざと「みか」を無視したり、ひどい言葉を投げかけたりしています。

一方、「ゆい」はどうでしょう。仲間に入れてあげたいという気持ちはあると思いますが、それを言えず、2人の言いなりになっています。自分が仲間はずれにされたら嫌だという思いがあるのかもしれないね。

仲間はずれにされるということは、とても辛いことです。「みか」の心の中には、大きな傷が残るでしょう。

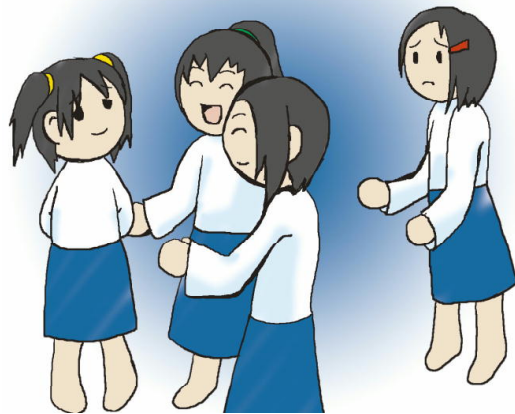
こんなことは、絶対に許されていいはずはありません。

「仲間はずれ」「からかい」「悪口」「無視」……。これらのいじめは、相手の心を深く傷付けてしまいます。いじめを許さない心が何よりも大切です。

仲間に入れてよ・・・

なぜ、仲間はずれにするの？
わたしが何をしたっていうの？

登校してきた「みか」が、教室
に入ると、「あや」「さき」「ゆい」
の3人が楽しそうに話をしていた
ので、いつものように、自分も話
に入ろうとしましたが・・・



みか 「おはよう！」

3人 みかのあいさつを無視して話をしている。

みか 「何してるの？」

3人 みかの問いかけにも無視して話をしている。

みか 「ねー、何話してるの？」

3人 わざとみかに背を向けて、話し続ける。

みか 「ねー、みんなどうしたの？」

あや 「もう、うるさいな。あなたには関係ないでしょう。」

さき 「あっちに行ってよ！」

みか 「何でそんなこと言うのよ。仲間に入れてよ。」

あや 「関係ないって言ってるでしょう。」

ゆい 「・・・」(みかがかわいそう。助けてあげたいけど・・・)

みか 「・・・」

あや 「もう、あっち行こう！」

さき 「行こう、行こう。ゆいも行こうよ。」

題 材 「本当は断りたいのに・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝えることの大切さを理解させる

2 場面設定

授業が始まる前に、友だちから宿題を見せてと頼まれた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、前段までを読む。)

「宿題見せて」と頼まれたとき、みなさんだったらどう答えますか？

それでは、3つの例で考えてみましょう。

□ (①を読む。)

どうでしたか？

中島さんが言うままに、しぶしぶ宿題を見せている感じですね。

□ (②を読む。)

これはどうかな？

「見せたくない」という気持ちをはっきりと中島さんに伝えてありますね。でも、何だか言い方が冷たいですね。

□ (③を読む。)

これはどうでしょう？

「見せてあげることはあなたのためにならない」という、中島さんを大切に思う気持ちがあるようですね。

□ この3つの会話から、とても大切なことが読み取れます。

①は、自分の気持ちを表現していません。

②は、断りたいという言い方が、攻撃的に聞こえます。

③は、自分も相手も大切にしたい言い方です。

□ みなさんがいろいろな人と話をするとき、自分の言い方を振り返ってみてほしいと思います。

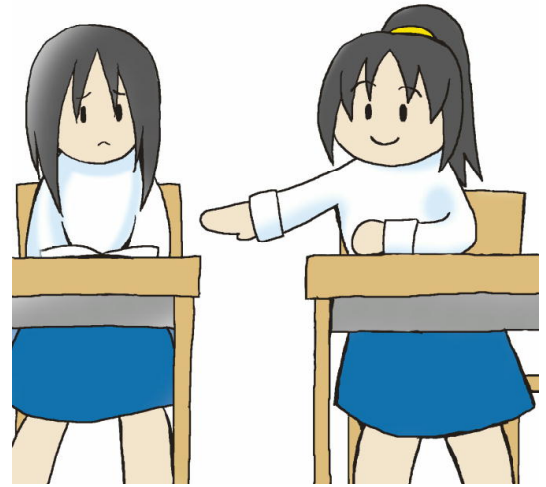
先生は、みなさんに、相手の気持ちも大切にしながら、自分の気持ちをうまく伝えることができるようになってほしいと願っています。

ほんとう ことわ
本当は断りたいのに・・・

ことわ
どう断ればいいのか？
ことわ
うまく断るにはどうすればいいのか？

こくご じゆぎょう まえ とも なかしま
国語の授業の前、友だちの中島さ
んから、「ねー、宿題、見せて」とた
のまれました。わたしは断りたいけ
ど、断ったら中島さんに悪い気もす
る。

どうすればいいのか？



- ① なかしま 中島 「国語の宿題、見せて。」
わたし 「えー。うーん。そうだなー・・・」
なかしま 中島 「早く見せてよ。」
わたし 「わかったわよ・・・」

- ② なかしま 中島 「国語の宿題、見せて。」
わたし 「何で見せなきゃいけないの。自分でや
ればいいじゃない。」
なかしま 中島 「・・・」

- ③ なかしま 中島 「国語の宿題、見せて。」
わたし 「ごめんなさい。まだ時間があるよ。手伝
うからいっしょにやらない？」
なかしま 中島 「ありがとう。」

題 材 「回そうか、止めようか・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

いじめは絶対に許さないという心情を育む

2 場面設定

授業中、クラスの一人を無視しようという手紙が回ってきた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

こんなとき、みなさんだったらどうしますか？

①のように、友だちを無視するのは嫌だけど、自分が無視されるのはもっと嫌だから、手紙を次の人に回してしまうという人がいるかもしれませんね。

□ また、②のように、友だちを無視することは嫌だから、手紙を回さずに、仲のよい友だちに相談してみるという人がいるかもしれませんね。

□ さらに、③のように、クラス全体のことなので、先生に相談してみるという人がいるかもしれませんね。

□ 誰も、独りぼっちになりたくはありません。友だちと仲よく過ごしたいはずですが、しかし、残念ながら、「いじめ」を受けて、辛く悲しい学校生活を送ったり、学校に行けなくなったりしている人もいます。

この話は、ちょっとしたいたずらなどではありません。

「楽しく学校生活を送りたい」と誰もが願う気持ちを踏みにじる、絶対に許されないことです。

□ みなさんには、「やめよう」と友だちに伝えたり、先生に相談したりして、いじめのないクラスにしてほしいと願っています。

④ 回そうか、止めようか・・・

友だちを助けたい
でも、自分が無視されたらどうしよう

授業中、クラスの一人をみんな
で無視しようという手紙が回って
きました。

次の人に回そうかな。同じクラ
スの友だちのことだし、止めようかな・・・。
どうしたらいいのかな？



① 自分が無視されるのはイヤなので、
次の人に回す。

② 手紙は回さずに、休み時間に仲のよ
い友だちと話をしてみる。

③ 先生に相談する。

題 材 「もう発表なんかしたくない・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

間違いや失敗を温かく受け入れる集団の大切さを理解させる

2 場面設定

発表して間違えたとき、皆に笑われた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、授業中に発表したり、委員会活動などで司会をしたりすることがありますね。

人前で話をするのは、誰でも緊張するよね。

□ 今読んだ資料では、ぼくが答えを間違えたときみんなに笑われて、発表することが恐くなってしまったんですね。

もし、みなさんが同じような経験をしたら、その後どんな気持ちになるでしょうか。

□ 「また、間違ったらどうしよう」

「また、笑われるかもしれない」

「いつもニヤニヤしながら見られているような気がする」

どんどん不安が大きくなるでしょうね。

□ みなさんは、毎日学校でたくさんのことを学んでいます。

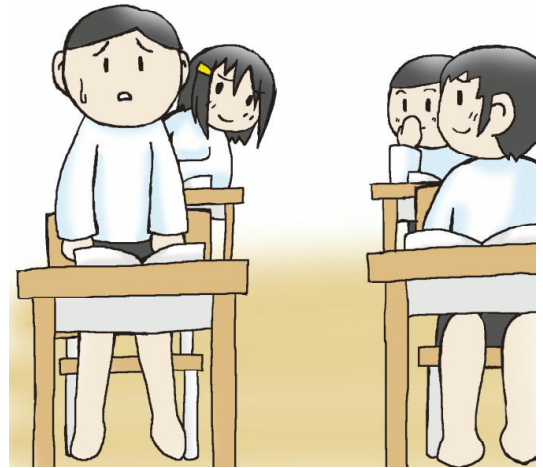
勉強するときは、間違ってもいいんだよ。間違いながら学んでいくんですよね。

みなさん一人ひとりには、間違いを恐れずに発表できるようになってほしいし、みんなには、間違いや失敗を温かく受け止められる、そんなクラスであってほしいと願っています。

もう発表なんかしたくない・・・

なぜみんな笑うの？
もう二度と発表はしたくない

ぼくは、最近まで、積極的に発表
する方でした。
でも、ある出来事があった、発表
するのがこわくなってしまいました。



先生 「この問題はだれに答えてもらおう
かな？それでは、田中君。」

ぼく 「はい、答えは76です。」

先生 「うーん。ちょっとおいしいね。」

周りのみんな

「あんなことも分からないんだ。」

「えー、どうして分からないの？」

クスクス…

ぼくは、しばらくの間、立ったままで、何も言えませんでした。
今では、分かっているけど発表しません。

題 材 「おかしいと思うんだけど？」（対象：高学年）

1 ねらい

自分で正しく判断し、適切な行動ができるようにさせる

2 場面設定

鉄棒で遊んでいると、上級生に譲れと言われた

3 指導の流れ

□（プリントを配付し、全部読む。）

みなさんは、どう思いますか？

私たちの学校にも、先輩から受け継がれた素晴らしい伝統があります。

しかし、中には「あれ、おかしいな」と思うことがあるかもしれませんね。

□ 資料の中では、下級生は上級生に遊び場を譲ることになっている、ということがあるようです。

おそらく、この上級生も自分が下級生の時、同じように「遊び場を譲れ」と言われてきたのでしょうね。きっとそのときは、嫌な思いをしたはずですが、自分が上級生になったら、同じことをしていますね。

遊び場は学年に関係なく、みんなで仲よく使う所ですよ。

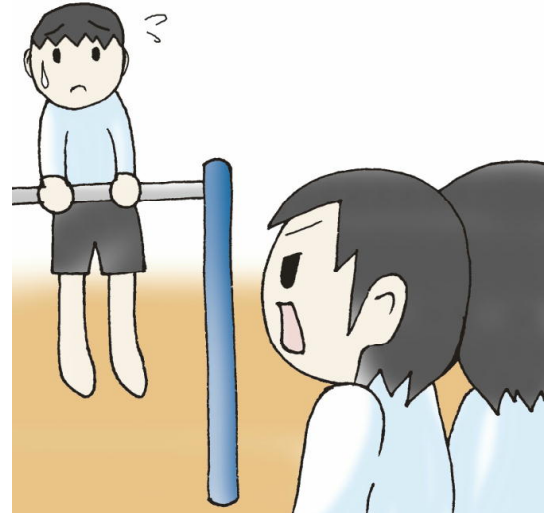
□ では、これまで「おかしいな」と感じてきたことを、誰が変えることができるのでしょうか？

それは、上級生であるあなたたちだからこそ、変えることができるのではないのでしょうか。

素晴らしい伝統はしっかりと引き継ぎ、「おかしいな」と思うことがあれば、それを上級生であるみなさんの力で変えていくことで、さらに、素晴らしい学校にしていきたいと思います。

おかしいおもと思うんだけど？

おかしいおもと思うんだけど？
でも、いま今までずっとつづ続けてきたし・・・



ぼくたちのがっこう学校には、「あいさつ
がよくできる」「おお大きなこえ声でうた歌える」
など、すばらしいでんとう伝統がたくさん
あり、ぼくはこのがっこう学校がだいす大好きで
す。

でも、ひと一つだけなっとく納得できないことがあります。それは・・・

ぼくが4年生ねんせいのとき、てつぼう鉄棒であそ遊んでいる
と、じょうきゅうせい上級生がやってきました、「そこ、どけ！」
と言われたことです。ぼくは、「どうしてで
すか？」と聞きましたが、じょうきゅうせい上級生が来たなら、
かきゅうせい下級生はゆずることになってるんだぞ！
とじょうきゅうせいその上級生は言うのです。

おかしいおもと思うんだけど？

題 材 「早く帰ってきてよ・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

他者の立場を理解し、物事を協力してやり遂げることの大切さを理解させる

2 場面設定

掃除時間、ゴミ捨てに行ったままなかなか帰ってこない

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

さて、プリントの中では、教室の掃除はたった4人しかいないのに、わたる君がゴミ捨てからなかなか帰ってきてくれません。

□ みんなは、早く帰ってきて手伝ってほしいと訴えていますね。

それに対して、わたる君は、「友だちと話をしていた」などと、自分勝手な理由を言っていますね。

みなさんは、どう思いますか？

□ 「そんなのは理由にならない」とほとんどの人が思ったことでしょうね。先生もそう思います。

では、どうしたら、みんなで協力して掃除ができるようになるのかな？

□ 例えば、曜日によって掃除の役割を代えてみてはどうでしょうか？

わたる君は、実際に3人で教室の掃除をしてみると、その大変さがよく分かることでしょう。

また、みんなが交代でゴミ捨てに行ってみると、結構時間がかかるのが分かるかもしれません。

そうやって相手の立場に立ってその大変さを理解すれば、協力して掃除ができるようになるのではないのでしょうか？

□ みなさんも、掃除中はもちろんのこと、学校生活のいろいろな場面で、相手の立場も考えながら、みんなで協力してほしいと願っています。

は や か え
早く帰ってきてよ・・・

にん きょうしつ
3人で教室のそうじをするのは大変
は や か え
早く帰ってきてよ!

こんげつ
今月、わたしたちの班は、教室の
そうじを担当しています。4人です
るのはけっこう大変です。

わたる くん はじ
わたる君は、そうじが始まると、
すぐにゴミ捨てに行ってしまう、終わるまで帰ってこないことも
あります。

だから、教室のそうじを3人でしなければなりません。



A 子 「わたる君、もっと早く帰ってきてくれない？」

B 男 「そうだよ、3人でそうじするのは大変なんだ
よ。」

わたる 「そんなこと言ったって、ゴミを捨てるのもけ
っこう時間がかかるんだよ。」

B 男 「そりゃー、そうだろうけど。」

C 子 「でも、そうじ時間が終わるまでかかるってこ
とはないでしょう？」

わたる 「たまたま、友だちと話してたんだよ。」

C 子 「そうじ中に話すことないじゃない。」

A 子 「みんなで協力しないと、そうじはできないよ。」

題 材 「みんな、ゴメン・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

一つの目標に向かって、皆で協力・団結することのすばらしさを理解させる

2 場面設定

運動会のリレーでバトンを落としてしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

リレーでバトンを落としてしまった田中さんの辛い気持ちがよく伝わってきます。みんなで優勝をめざして頑張ってきたはずです。もちろん、田中さんも。

でも、残念ながら、優勝できませんでした。

□ この話には続きがあります。

運動会が終わって、担任の先生は、元気のない田中さんの様子をととても気にしていましたので、「運動会のリレーのこと、今日の終わりの会でみんなに話していい？」と聞きました。田中さんがうなずくと、先生は背中をぼんと叩いてくれました。

□ その日の終わりの会で、先生はこんな話をされました。

「みなさん、優勝できなくて残念だったね。あれだけ、頑張ってきたのにね。先生もみなさんと同じくらい悔しい。でも、一番悔しいのは誰だと思う？そう、田中さんだよ。

でも、今は、優勝よりも大切なものがあると思っています。

みなさんは、リレーの練習の時から、一秒でも早く次の人にバトンを渡そうと走り抜いたし、走り終えても、友だちを一生懸命応援しました。先生は、みんなが心一つにして取り組んできたことが何よりもうれしかったんですよ。

もちろん、田中さんもみんなと同じ気持ちで一緒に取り組んできたんだよ。

□ そのとき、田中さんが立ち上がり、「みんな、ゴメンね」と言いました。

みんなは、笑顔でうなずいたそうですよ。

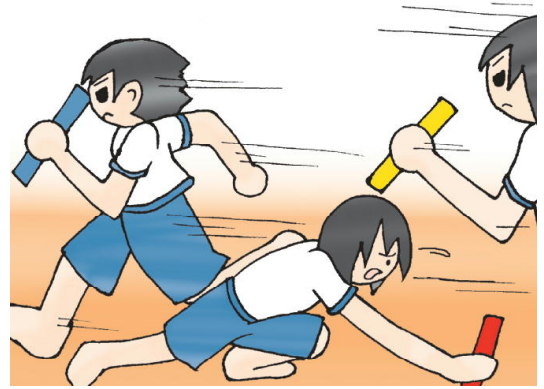
みんな、ゴメン・・・

みんながんばったのに
わたしのせいで優勝できなかった・・・

がっきゅう ぜんいん うん
学級たいこうの全員リレーは、運
どうかい まいとしいちばん も あ きょうぎ
動会で毎年一番盛り上がる競技です。
たなか ゆうしょう
田中さんのクラスでも、優勝をめ
ざして、ずいぶん前から練習に取り組
んできました。

うんどうかいとうじつ たなか でばん き
運動会当日。田中さんの出番が来
ました。1位でバトンを受け取り、走り出したそのとき、バトン
がその手からすべり落ちてしまいました。

けっきょく おと
結局、そのおくれを取りもどせず、優勝することはできません
でした。



「あーあ、最後のリレーだったのに・・・」

「とちゅうまで1位だったよねー。」

「あれさえなければねー。」

「思い出が一つ減ったね・・・」

そんなみんなの声に、田中さんの心はもうぼろぼ
ろです・・・

題 材 「だれが書いたの・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

インターネット上の基本的なルールやマナーについて理解させる

2 場面設定

自分のブログに中傷する書き込みがあった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、前段の部分を読む。)

インターネットは、世界中の情報をすぐに調べたり、遠くに離れている人ともメールなどで連絡を取り合ったりすることができるなど、とても便利なもので、私たちの生活にはなくてはならないものです。

みなさんも、今後、パソコンや携帯電話などを使って、インターネットを活用する機会が増えていくことでしょう。

しかし、その陰で、いじめや犯罪などが起きていることも事実です。

□ インターネットを使うときは、ルールやマナーを必ず守ることが大切です。

資料の下半分を見てください。

※ 資料を元に、説明する。

□ 人の悪口などを書き込んで、相手を傷つけたりすることで、訴えられたり、逮捕されたりすることもあります。

実際にこんなことがありました。

ある高校生のホームページに、何回も深く傷つくような言葉の書き込みがありました。高校生は、保護者と一緒に警察に相談しました。その後、加害者は、警察によって「名誉棄損」の罪で逮捕されました。

加害者は、「軽い気持ちでやった」などと言っているようですが、被害者は大きな不安を感じ、本当に嫌な思いをしていました。

□ インターネットは（今度、総合的な学習の時間にしっかりと学ぶことにしていますが）とても便利なものですが、みんなが安心して利用するためには、ルールやマナーをしっかりと守ることが大切です。

だれが書いたの・・・

いったい
一体だれが書いたの？
こんなことして何が楽しいの？



(※) わたしは、ブログを見るのを楽しみにしています。

ある日、わたしのブログに、からかうような書き込みがありました。

だれが書いたのかは分かりません。

こわくなって、母に相談すると、「すぐにブログはやめなさい」と言われました。

毎日楽しみにしていたのに、一体だれがこんなひどいことを・・・
不安といかりがこみ上げてきます。

(※) ブログ・・・インターネット上に公開している日記のようなもの

ブログや掲示板などに参加するときのルールやマナー

ブログや掲示板などに参加するときは、基本的なルールやマナーを守りましょう。

○ ウソや本当かどうか分からないことを、正しいことのように書いてはいけません。

○ 書き込むときには、相手を傷つけないように、注意深く言葉を選びましょう。乱暴な言葉、きたない言葉は使ってはいけません。

○ 人の悪口を書いたり、いやがらせをしたりすることは絶対に行けません。

題 材 「ぼくにおしつけないでよ・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

一人ひとりを尊重する集団の大切さを理解させる

2 場面設定

自分の意見が言えないまま係が決まってしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

私たちのクラスでも、学級の仕事をみんなで分担していますが、どの係もなくてはならない役割ですね。

資料の中では、佐藤君は学習係になりたいと思っていましたが、自分の意見が言えないまま、係が決まってしまいました。

□ もちろん、飼育係はとってもやりがいのある重要な仕事です。

ただ、ここでの問題は、係の決め方です。

□ 「じゃあ、佐藤は？」と聞かれたときに、「ぼくは学習係になりたい」と自分ではっきり意見が言えたらよかったのかもしれませんが、やるともやらないとも言っていないのに、もう決まったかのような雰囲気になってしまいました。

佐藤君にしてみれば、みんなから押しつけられたという思いが残るはずです。

□ クラスの雰囲気というのはとても大切です。

誰もが自分の意見や考えを安心して言えるのは、どんなクラスでしょうか？

例えば、最後まで真剣に話を聞いてくれる、違う意見も大切にしてくれる、一人ひとりの意見を認めてくれるなどの雰囲気があるクラスだと思います。

逆に、なかなか意見が言いにくいのは、どんなクラスでしょうか？

例えば、一部の人の意見で決まってしまう、誰かが意見を言うとすぐに冷やかされる、答えを間違ったら笑われるなど、一人ひとりが大切にされない雰囲気があるクラスだと思います。

□ みなさんには、自分の思ったことが安心して言える、違う意見でも大切に受け止めてくれる、そんな一人ひとりを大切に作るクラスになってほしいと願っています。

ぼくにおしつけないでよ・・・

ぼくだってやりたくないのに
いつもイヤなおしつけを・・・

佐藤さとうくんのクラスでは、班員はんいんみんなで、係かかりの仕事しごとを分担ぶんたんしています。
佐藤さとうくんは、次つぎは学習がくしゅう係かかりになりたいおもと思っています。
いよいよ係かかりを決きめることになりましたが・・・



先生せんせい 「それでは、今いまから班はんに分わかれて、係かかりを決きめます。みんなで話し合はなって決あめてください。」

【佐藤さとうくんの班はんの話し合はないの様子ようす】

「それじゃあ、係かかりを決きめよう。」

「飼育しいく係かかりは、これからは寒さむいから大たい変へんだよな。」

「だれがする？」

「今井いまいはどうだよ？」「えー、イヤだよ。」

「じゃあ、佐藤さとうは？」「え、ぼくは・・・」

「お、やってくれるのか？」「じゃあ、決きまりね！」

「みんな、はく手しゅー！」

ぼくは、自分じぶんの意見いけんが言いえないまま、係かかりが決きまっ
てしまいました。

題 材 「楽しく話がしたい・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

仲間はずれにされた寂しさを理解させ、友だちを大切にできる心情を育む

2 場面設定

3人で下校中、自分だけ仲間はずれにされている

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんだったら、こんなときどうしますか？

「私も仲間に入れてよ」と、すぐに話せる人もいるでしょう。でも、なかなか自分からは言い出せない人もいるよね。

2人だけで楽しそうに話をして、自分だけ話しかけられないのって寂しいよね。

□ 私は、どんなことを考えているのかな？

「また今日も話しかけてくれないのかな？」

「2人とも、私のことが嫌いなのかな？」

「私が何か悪いことをしたのかな？」

「私がいっしょに帰らない方がいいのかな？」

「明日からは、一人で帰ろうかな？」

□ そんな私の気持ちを知った2人は、こんな話をしていました。

「えー、そんなこと思ってたんだ」

「すぐに言ってくれればよかったのに」

「私たち、そんなつもりはなかったのよ」

□ 仲間に入れてもらえないときは、「不安」や「寂しさ」を感じるものです。

自分が楽しいときは、周りの人の気持ちまで考えられないことがあります。

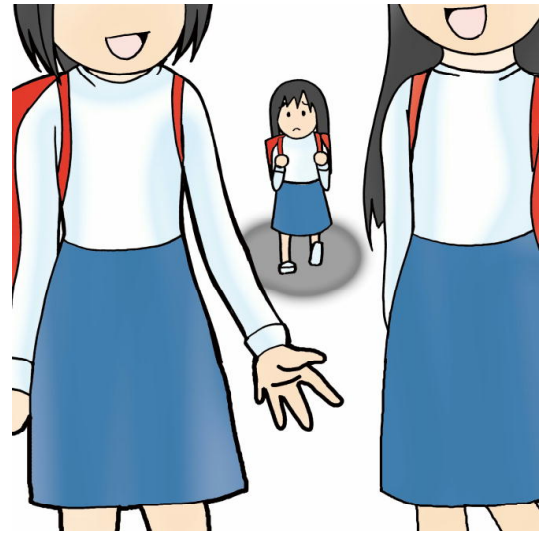
みなさんも、ちょっと周りを見てごらん。みんなが楽しく過ごせるといいですね。

たの はなし 楽しく話がしたい・・・

なぜ、ふたりだけで話すの？
わたしも仲間に入れてよ・・・

いつも3人で仲よく帰っていたのに、最近、ふたりだけで楽しそうに話をして、わたしだけが仲間はずれになっているような気がします。

今までのように、3人で仲よく帰りたいけど、どうしたらいいのかな？



- ① がまんして、ふたりが話しかけてくれるのを待つ。
- ② 「どうしてわたしを仲間に入れてくれないの？」と勇気を出して聞いてみる。
- ③ 「いっしょに楽しく帰りたいから、わたしも仲間に入れてよ。」と自分の気持ちを伝えてみる。

題 材 「ぼくのせいじゃないのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

自分の非を素直に認め、きちんと謝ることの大切さを理解させる

2 場面設定

友だちとふざけていたら、花びんを割ってしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんだったら、こんなときどうしますか？

□ この話には続きがあります。

担任の先生が、教室でみんなに何があったのかを聞きました。

ひろし君が「さとしがやった、さとしがやった」と何回も先生に言いました。

先生は、一端みんなを静かにさせたあと、ぼくにこう聞きました。

「さとし君、何があったのか先生に話してごらん。」

□ ぼくは、しばらく考えた後、健太君とふざけて体育袋を投げ合っていたこと、そのうち、健太君の投げた袋が花びんに当たって割れてしまったこと、だけど、花びんを壊してしまったのは、自分にも責任があることを話しました。

そして最後に、「大切なクラスの花びんを壊してごめんなさい」と健太君と一緒に謝りました。

□ 後片付けをすませて、先生はみんなにこんな話をしました。

「学級の花びんは残念ながら割れてしまいました。でも、誰も怪我をしなくてよかったね。

誰でも失敗することはあります。でも、失敗したときには、何があったのか正直に話し、謝ることが大事ですね。」

□ さらに話は続きます。

この後、先生はひろし君とのことについて話を聞いてくれました。そして、ひろし君と話し合いをし、意地悪もすっかりなくなりました。

今、教室の後ろには、先生が買ってくれた新しい花びんに花が生けてあります。

その花びんには、「みんなの大切な花びん」というシールが貼ってあるそうです。

ぼくのせいじゃないのに・・・

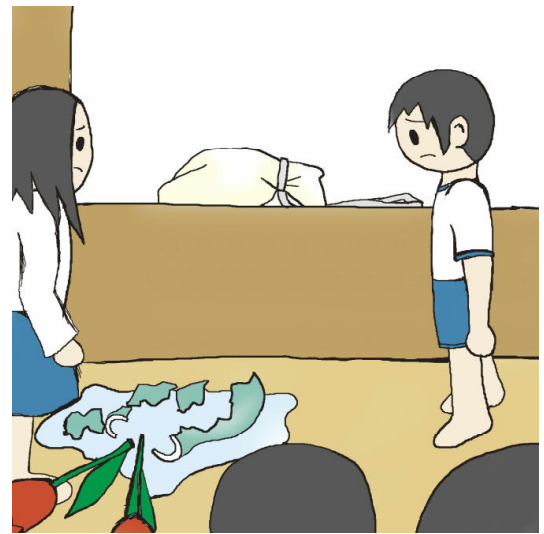
ぼくがわったんじゃないのに・・・
ぼくだけのせいにするなんてひどい

たいいくのきがえのとき、けんたくんとふざけてたいいくぶくろを投げ合っていたら、けんたくんが投げたふくろが花びんに当たって、われてしまいました。

われた音を聞いて、教室に入ってきたみんなは「あー！」と言ってぼくの方を見えています。

いつもぼくに意地悪をしているひろし君が、特に大きな声で「きとしがやった」と言いふらしています。

どうしたらいいのかな？



① 自分がわったのではないので、そのことをみんなに言う。

② みんながぼくがわったと言うので、仕方なくあやまる。

③ 自分もいっしょにふざけていたので、すなおにあやまる。

題 材 「これくらい、いいかな？」(対象：中学年)

1 ねらい

「いけないことはいけない」と正しい判断ができるようにさせる

2 場面設定

学校にゲーム機を持ってきて見せびらかしている

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさん、どう思いますか？

もちろん学校にゲーム機を持ってきて、よいはずはありませんよね。

先生は、会話の中で、気になる言葉があります。

「見つからなかったらだいじょうぶだよ。」

見つからなかったら、何をしてもいいのかな？

それから、「今度、ちがうのももってくるよ。」

ゲーム機を持ってくるのが、当たり前になってしまいそうですね。

□ こんな話があります。

アメリカのある町で、夜中に若者がふざけて一枚のガラスを割りました。その家は空き家で、割れた窓はそのままにされていました。

その後、この町では窓が割れていることが当たり前になって、町中の窓が次から次へと割られてしまいました。他の犯罪も増えていきました。

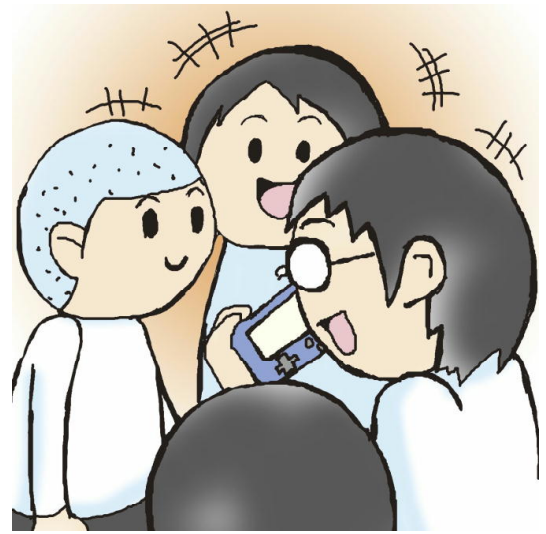
こんなことくらい大丈夫だと放っておくと、どんどんひどくなっていくということです。

□ 資料の話では、「ゲーム機くらいいいかな」と思って続けていると、それが当たり前になり、他の決まりも「これくらいいいか」となってしまうそうです。

「いけないことはいけない」とみんなで判断できるクラスになってほしいですね。

これくらい、いいかな？

これくらい、いいかな？
みんなも楽しんでるし・・・



ある日、クラスの友だちが、一番新しいゲーム機をもってきて、みんなに見せびらかしています。

クラスの中では、ほかにまだだれももっていないので、みんなうらやましそうです。

「あっ、一番新しいゲーム機だ！」

「いいなー。」

「ぼくにも見せてよ。」

「でも、学校にもってきたらいけないんじゃないか？」

「見つからなかったらだいじょうぶだよ。」

「今度、ちがうのももってくるよ。」

このままでいいのかな？

題 材 「言わなくてもいいのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

先入観で人を判断したり、人の不利益になる情報を安易に流したりしないようにさせる

2 場面設定

悪口を言ったことがその人に伝わっていた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさん、話の流れはわかりましたか？

ぼくともや君が、こうじ君のことを話しています。

ぼくはこうじ君のことをあまり知らないのに、ともや君から「こうじはいじめっ子なんだって」という話を聞いて、「やっぱりそうなんだ」と答えています。

その上、「何だか、意地悪そうだもんね」とも言っています。

□ その人のことをよく知らないのに、見た感じや人から聞いたことだけで、その人のことを決めつけてしまっています。

「先入観」(板書)という言葉があります。難しい言葉ですが、「最初に知ったことによって、偏った見方や考え方をしてしまう」ということです。

これは、とても危険なことです。

□ もう一つ大切なことがあります。

なぜ、こうじ君は、「ぼく」が悪口を言ったことを知っていたのでしょうか？

ともや君がこうじ君に伝えたからです。

こんなことが、けんかやいじめの元になることがよくあります。

□ 今日の話の中で大切なことが3つあります。

○ 見た目や人から聞いたことだけでその人を判断しないこと。

○ 人の悪口を言わないこと。

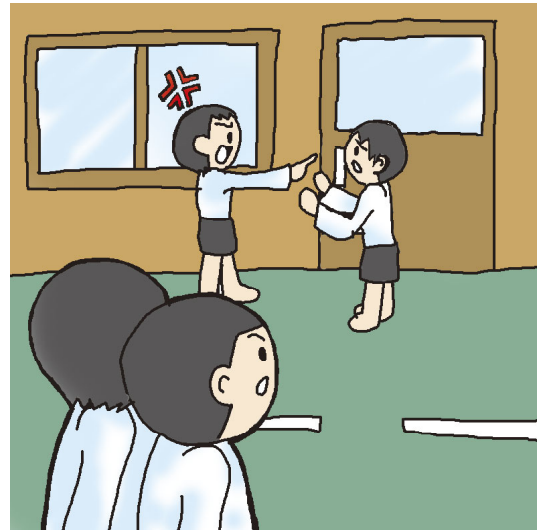
○ 人が困るようなことを言いふらさないこと。

言わなくてもいいのに・・・

わざわざ言うことないのに
き
気まずくなったな・・・

やす じかん にも や くん と ろう 下 を ある
歩
き ながら、話 を して いる と、と な り
の クラス の こう じ くん が、ほ か の 男子
と 言 い あ ら そ い を して いた っ た。

それ を 見 た と も や くん が ぼ く に 言 い
ま した。



ともや 「こうじのこと知ってる？」

ぼ く 「ちょっとね。」

ともや 「こうじはいじめっ子なんだって。」

ぼ く 「やっぱりそうなんだ。なんだか、
い じ わ る
意地悪そうだもんね。」

ぼくは、なにげなくそう言いました。

ところが、その日の放課後、こうじ君がぼくの所に来て言うの
です。

こうじ 「ともや君から聞いたけど、ぼく
の悪口言っただって!？」

題 材 「どうして意地悪するの？」(対象：中学年)

1 ねらい

相手に嫌な思いをさせることをしてはならないことを理解させる

2 場面設定

アレルギーのために食べられない卵がたくさんつがれていた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、この資料を読んでどう思いましたか？

誰かが、意地悪を思いついて、ウズラの卵をいっぱいついでんでしょね。

そのとき、周りの人の中には、「おもしろそう」と言った人がいるかもしれません。

でも、「やめよう」と言った人もきつといるはずですよ。

しかし、残念ながら、ウズラの卵はいっぱいにつがれたままです。

□ こんなとき、みなさんだったらどうしますか？

「なんで卵がいっぱい入っているのー！」とすぐにみんなに言える人、何も言えずに困ってしまう人、中には泣き出してしまう人もいるかもしれませんね。

□ しかし、「心が傷付いている」ということは一緒ですね。

身体の傷は外から見えますが、心の傷は分かりにくいものです。

軽い気持ちでやったことでも、その人の心を深く傷付けることがあるのです。

相手の心を傷付けることは、絶対に許されるものではありません。

□ 「ちょっと待てよ。相手はどう思うかな？」「もし自分がそんなことをされたら・・・」と相手の立場に立って考えることがとても大切ですね。

どうして意地悪するの？

みんな知ってるのに・・・
どうしてイヤなことをするんだろう？



わたしは、小さいころからたまごアレルギーで、たまごを食べることができません。そのことを、家の人^{いえひと}が先生^{せんせい}に伝えて、先生はクラスのみん^{みな}なに話^{はな}してくれています。

でも、給食時間^{きゅうしょくじかん}に係^{かかり}の仕事^{しごと}をしていて教室^{きょうしつ}にもどったら、温食^{おんしょく}の中^{なか}にウズラのたまごがどっさり・・・。しかも、わたしのお皿^{さら}にだけ。

こまったわたしを見て、みんながニヤニヤ笑^{わら}っている気^きがする。わたしがたまごを食べ^たられないことをみんな知^しっているのに。どうしてこんなことをするの？

- ① たまごだけをのこして食^たべる。
- ② 「だれがこんなことをしたの？」とみんなに訴^{うった}える。
- ③ 先生^{せんせい}に相談^{そうだん}する。

題 材 「仲よく遊ぶためには・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝えることの大切さを理解させる

2 場面設定

昼休み、ブランコで遊んでいたらかわってと言われた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、前段の部分を読む。)

みなさん、こんなことは今までありませんでしたか？

友だちから「かわって」と言われたときに、自分ならどう応えるか考えながら聞いてください。

□ (①を読む。)

どうでしたか？

こんな風に言われたら、あきなさんはどう思うかな？

「もういいわ」とか「何よ。かわってくれてもいいじゃない！」と少しけんかみたいになるかもしれないね。

□ (②を読む。)

これはどうかな？

あきなさんは、「ありがとう」と言って喜んでくれるかもしれないけど、私だってブランコをやりたいよね。

□ (③を読む。)

これはどうかな？

あきなさんは、「ありがとう」と言ってくれるだろうし、私もブランコができるよね。そして、一緒に仲よく遊べそうだね。

□ ①はあきなさんの気持ちを考えていないよね。②は自分の気持ちを伝えていないよね。それに対して、③は自分の気持ちもあきなさんの気持ちも大切にしたい言い方だと思いませんか？

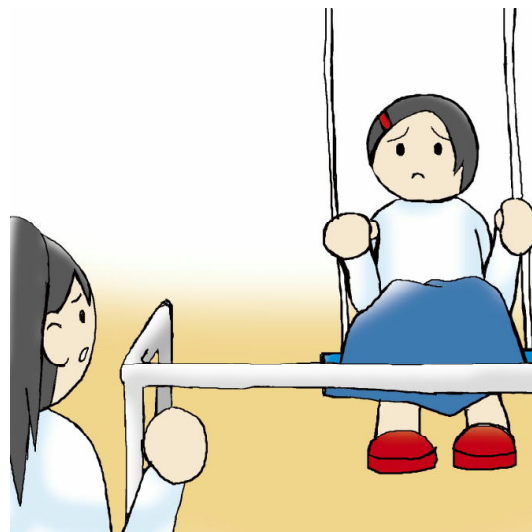
みなさんには、友だちの気持ちを大切にしながら、自分の気持ちもうまく伝えることができるようになってほしいと願っています。

仲よく遊ぶためには・・・

どう言ったらいいのかな？
ことわったらけんかになってしまうのかな？

ひるやす 昼休み、わたしは大好きなブラン
コで遊んでいました。そこへ、あき
なさんがやってきて、ブランコをかわ
ってほしいと言いますが、わたし
は、まだ遊び始めたばかりで、かわ
りたくありません。

こんな時、どう言ったらいいのかな？



- ① あきな 「ブランコかわって。」
わたし 「いやよ！今、始めたばかりだもん。
ちが 違うもので遊べば。」
あきな 「〇〇〇〇」
- ② あきな 「ブランコかわって。」
わたし 「えー。しょうがないなー。あと
にもかわってよ。」
あきな 「△△△△」
- ③ あきな 「ブランコかわって。」
わたし 「ごめんね。わたしも今始めたばかり
なの。すこ 少々待ってて。交代で遊ぼう！」
あきな 「□□□□」

題 材 「勇気を出して・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

集団の一員として、不適切な言動を皆で正すことの大切さを理解させる

2 場面設定

いじめの場面で、勇気を出して注意した

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

まこと君は、いつもクラスの人からイヤなあだ名で呼ばれて、からかわれていました。本当にイヤな気持ちだったでしょうね。

一番辛いのはもちろんまこと君ですが、それを見ていたクラスの友だちもイヤな気持ちになっていました。

□ 我慢できなくなった「みつる君」が勇気を出してみんなに言いました。

また、そんなみつる君の勇気で、「ぼく」も自分が今まで思っていたことを言うことができました。

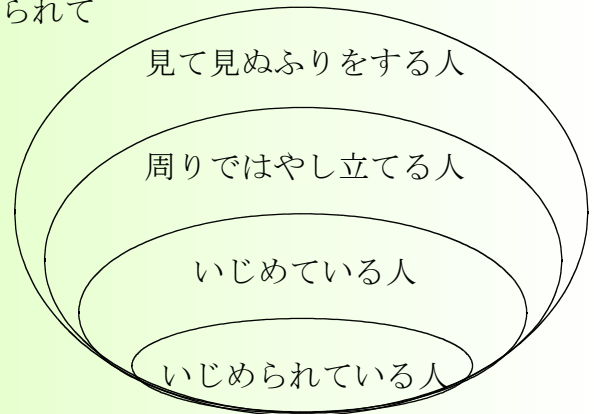
□ イヤなあだ名で呼ぶことはもちろんいじめです。

「いじめ」は、いじめている人といじめられている人だけの問題ではありません。

それを周りで見ている人、その人たちの中には、いじめを見ておもしろがっている人もいるかもしれません。また、見て見ぬふりをしている人もいるかもしれません。

実はその人たちも、いじめていることと同じなんです。

いじめはみんなの問題なのです。いじめをなくすためには、みんなの力が必要なのです。



□ みつる君やぼくが言った、「みんなで仲よくしよう。その方が楽しいに決まっている。」「からかわれているのを見るのは、とてもイヤだった。」というところはとても大切だと思います。

みなさんには、クラスの一員として、「いじめは許さない」という強い気持ちで学校生活を送ってほしいと願っています。

勇気を出して・・・

何でからかったりするの？
そんなこともうやめようよ・・・

ぼくたちのクラスのまこと君は、
いつもイヤなあだ名でよばれていま
す。

ぼくは、注意したいけど、なかなか
その勇気が出ません。

今日も、まこと君がイヤなあだ名
を言われて、からかわれていました。
そのとき、みつる君が大きな声で言いました。



「まこと君がいやがっているじゃないか。
何で人のいやがることを言うんだよ。み
んなで仲よくしようよ。その方が楽しい
に決まっているよ。」

ぼくは、今まで言えなかったことをみつる君が言ってくれて、
うれしくなりました。それと、今まで言えなかった自分がはずか
しくなりました。だから、ぼくも勇気を出して言いました。

「ぼくも、みつる君と同じ意見だよ。今
まで言えなかったけど、からかわれてい
るのを見るのは、とてもいやだった。も
う、こんなことやめようよ。」

みんなも、うなづいてくれました。

題 材 「せいいっぱいやっているのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

皆で協力し合って一つのを創り上げる大切さを理解させる

2 場面設定

笛がうまく吹けないことを皆から責められる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、この資料を読んでどう思いましたか？

たて笛があまり得意でないわたしは、毎日、家でも練習しています。

でも、どうしてもうまく吹けないところがあります。

間違うたびに、周りの人から責められます。

□ そのときのわたしは、どんな気持ちでしょうか？

「みんなに迷惑をかけて悪いな」「なんとかしなくちゃ」という気持ちもあるでしょう。

でも、「自分だって毎日練習して頑張っているのに」「そんな言い方しなくてもいいじゃない」という気持ちも分かるよね。

□ 確かに、音楽会ではみんなすばらしい合奏をしたいよね。

でも、できない人を責めてもよいのでしょうか。

何かみんなで手伝ってあげることはないのでしょうか。

例えば、いつも間違うところを一緒に練習したり、うまく吹ける「コツ」を教えてあげたりするというのはどうでしょうか？

□ そうすれば、すばらしい合奏ができたという喜びに加えて、「みんなの協力」という宝物までついてくるはずですよ。

せいっぱいやっているのに・・・

いえ まいにちれんしゅう
家でも毎日練習しているのに
そんな言い方しなくても・・・

わたしたちは、音楽会に向けて合
そうの練習に毎日取り組んでいます。
わたしは、たて笛をたんとどうして
います。家でも練習していますが、
どうしてもうまくふけない所があります。



みんな 「いつも同じところでまちがうね。」

「家でちゃんと練習してるの？」

わたし 「みんなにめいわくをかけたくない
から、家でも練習してるわよ。」

みんな 「一人でもまちがうと、音楽が乱れ
るんだから。」

「まちがわないように、もっと練習
してよ。」

わたし 「分かっているわよ・・・」

みんなにめいわくをかけているのは分かるけど、そんな言い方
をしなくても・・・。

題 材 「仲よくしたいのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

互いの違いを理解し、尊重し合う心情を育む

2 場面設定

言葉の違いから、転校先の学校に馴染めない

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

転校生がなかなかクラスに馴染めずに、寂しい思いをしていますね。

お母さんとの会話を聞いて、みなさんどう思いますか？

山口弁にしないといけないのでしょうか？

□ 言葉が違ったら、みんなと仲よくできないのでしょうか？

仲よくなって、自分たちの知らない大阪のことを聞いたり、大阪弁を教えてもらったりするほうが、ずっと楽しいですね。

それと同時に、山口のすばらしさを転校生に伝えることができたらいいですね。

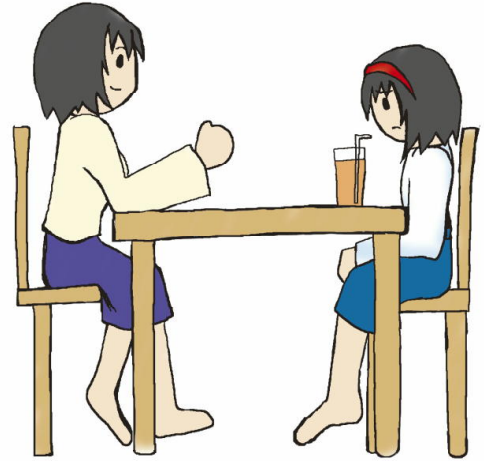
□ みなさんの中に、顔や声、話し方や考え方が全く同じ人はいませんよね。

「十人十色」(板書)という言葉があります。これは、「好きなものや考え方などは、人によってそれぞれ違う」という意味です。

一人ひとり違って当たり前です。違いがあるからこそ、いろいろな考え方や感じ方を学び合うことができるんだと思うよ。

なか 仲よくしたいのに・・・

だれか^{とも}友だちになってほしいな
ひとりぼっちはさみしいよ



わたしは、お父^{とう}さんの仕事^{しごと}の関係^{かんけい}
で、生まれ育^うった大阪^{おおさか}から転校^{てんこう}して
きました。

大阪^{おおさか}では、たくさんの友だち^{とも}と、
毎日^{まいにち}楽しくすごしていました。

でも、この学校^{がっこう}では、言葉^{ことば}が少しちがうことでみんなに冷やか^ひ
されたり、仲間^{なかま}に入れてもらえなかったり、とてもさびしい思い^{おも}
をしています。

ある日^ひ、お母^{かあ}さんに相談^{そうだん}してみました。

わたし 「うち、学校^{がっこう}で仲間^{なかま}に入れてもらえへ
んのや。」

母^{はは} 「何^{なん}で？」

わたし 「大阪^{おおさか}弁^{べん}つこうとるからちゃう？」

母^{はは} 「そら、山口^{やまぐち}弁^{べん}になれなあかな。」

わたし 「うち、大阪^{おおさか}が好き^すやねん。山口^{やまぐち}弁^{べん}
せなあかんのやろうか？」

題 材 「何でそうなるの？」(対象：中学年)

1 ねらい

相手の気持ちを尊重した言い方の大切さを理解させる

2 場面設定

サッカーの試合に負け、メンバーの心が離れた

3 指導の流れ

□ (4コマ漫画を配付する。)

みんなが勝利をめざしてサッカーの試合をしていますね。しかし、残念ながら、負けてしまいました。

2コマ目に、キャプテンが、「どこねらってシュートしてんだよ」と言っていますね。

このキャプテンの発言をみなさんはどう思いますか？

□ 「いくらキャプテンでも、言い方がひどい」

「もっと励ますような言い方をした方がいい」

「キャプテンとして、こういう言い方になるのは仕方がない」

など、いろいろな思いをもったことでしょう。

□ 4コマ目では、試合後にキャプテンとメンバーの心が離れてしまっていますね。なぜそうなったのでしょうか？

シュートした人は、はずそうと思ってシュートしたわけではありませんし、失敗したときには「しまった！」と思ったことでしょう。そのときにキャプテンが、「ドンマイ。次も頑張ろう！」と声をかけていたらどうだったでしょう。

シュートした人は、「今度こそ決めてやるぞ！」という気持ちになるのではないのでしょうか。

□ 言葉って難しいですね。

やる気が出る言い方もあるし、やる気がなくなるような言い方もあります。

キャプテンも他のメンバーも、チームの勝利を願っている気持ちは同じです。みんなのやる気が出るような言い方をした方が、きっと伸び伸びとプレーできるのではないのでしょうか？

みんなで 何でそうなるの？

チームのために言ったのに
なぜきられなくちゃいけないんだよ？

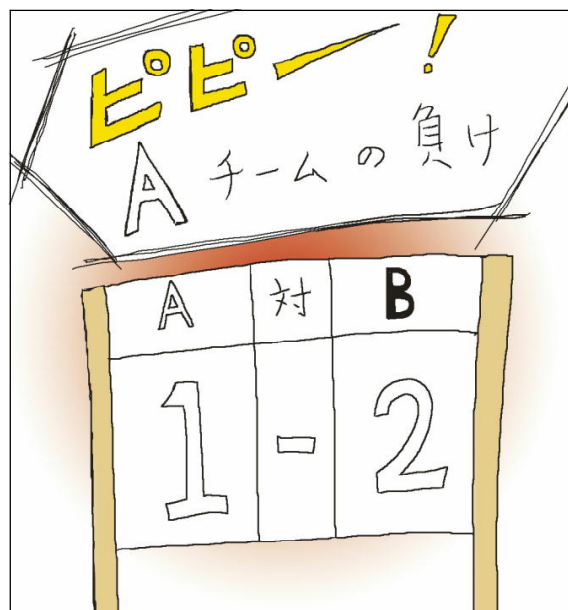
①



②



③



④



題 材 「早くしてほしいけど・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝える方法を知らせる

2 場面設定

登校時、毎朝友だちに待たされる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、前段の部分を読む。)

みなさんなら、こんな時どう言いますか？

プリントに3つの言い方があります。一つずつ読んでみましょう。

□ (①を読む。)

どうですか？

自分の気持ちをそのままみさきさんに伝えていきますね。

そうすると、みさきさんは「じゃあ、一人で行ってよ」と怒るかもしれないね。

□ (②を読む。)

この言い方はどうですか？

上手に言えたように思えますが、みさきさんと一緒に学校に行くことはできませんね。

□ (③を読む。)

この言い方はどうですか？

みさきさんと一緒に行きたい、という気持ちを伝えているね。

それと一緒に、待たせないように早くしてねということもきちんと伝えているね。

□ 毎朝、待たされるのは嫌だよね。

自分だけが我慢するのでは解決にはならないよね。

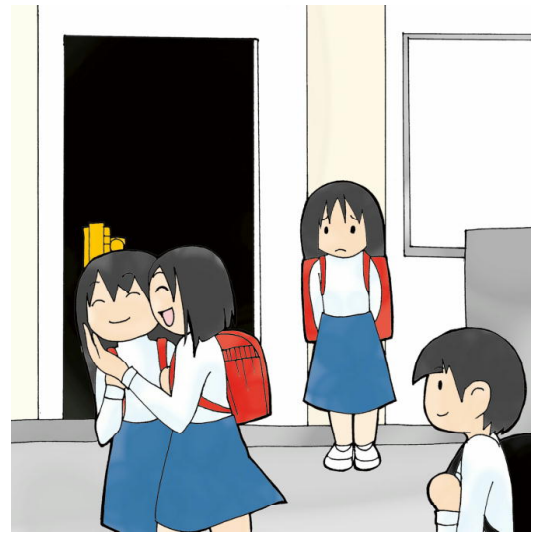
上手な伝え方は、みさきさんと一緒に行きたいという自分の気持ちをきちんと伝えること、それと一緒に、待たせないでほしいという気持ちも伝えることです。

先生は、みなさんに、友だちの気持ちを大切にしながら、自分の気持ちもうまく伝えることができるようになってほしいと願っています。

早くしてほしいけど・・・

どう言えばいいのかな？
がまんするしかないのかな？

わたしは、毎朝、友だちのみさきさんの家によって、いっしょに学校に行っています。でも、さきさんはいつもわたしがまたされて、ちこくしそうになります。早くしてほしいけど、友だちだからなかなかうまく言えません。どう言えばいいのかな？



- ① 「早くしてよ！いつもまたされるのはもういや。」
- ② 「おそくなるときは、さきに行くからね。」
- ③ 「いっしょに行きたいから、またせないでね。」

題 材 「きちんとつたえるには・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

自分だけで悩まないで、周りの人に相談してよいことを知らせる

2 場面設定

下校時、毎日カバンを持たされる

3 指導の流れ

(プリントを配付し、全部読む。)

みなさんだったら、どうしますか？

自分の気持ちを伝える方法はいろいろあると思いますが、「いつもぼくだけがみんなのカバンを持つのはイヤだから、カバンは自分で持って」と、きちんと友だちに伝えることが一番大切です。

それでもだめなら、

おうちの人に話してみるとか、先生に相談してみるという方法がよいでしょう。

みなさんの周りには、たくさんの大人の方がいますよね。

もし、みなさんだけでうまくいかないことがあるときは、周りの大人の力を借りましょう。

相談することは、決して恥ずかしいことではありませんよ。

周りの人たちは、みんなが楽しく、仲よく生活してほしいと願っています。

先生もみんなの力になりたいと思っていますので、もし困ったことがあったら、いつでも相談してね。

きちんとつたえるには・・・

どう話せばいいのかな？
みんなのカバンをもつのはイヤだな

しょうがくせい
小学生になってから、ぼくは
まいにちとも
毎日友だちと3人で帰ってしまし
た。

でも、だんだんいっしょに帰る
のがイヤになっています。



3人でじゃんけんをして、まけた人が友
だちのカバンをぜんぶもって帰ってしまし
たが、いつの間にか、ぼくが毎日カバンを
ぜんぶもつようになりました。友だちは、
ぼくがもつのがあたり前だと思っているよ
うです。

今さら、イヤだと言いにくいし・・・

でも、毎日カバンをもたされるのはイヤ
だし・・・

どうすればいいのかな？

題 材 「すぐにあやまりたかったけど・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

自分の非を素直に認め、きちんと謝ることの大切さを理解させる

2 場面設定

走って教室に入ろうとしたら、人とぶつかった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

大きわざになってしまって、すぐに謝れなかったぼくの気持ちも分かるよね。

また、ひろ子さんは、「なぜ謝ってくれないの？」という気持ちでいるのでしょ
うね。

□ こんなとき、どうしたらいいのかな？

わざとじゃなくても、ぶつかったらきちんと謝ることが大事だよね。

ぼくは、すぐに謝ることはできませんでしたが、今からでも遅くないから、ひろ
子さんにきちんと謝ったらいいよね。

□ 学校は、たくさんの人たちが一緒に生活しています。だから、ぶつかったりする
こともあります。

でも、自分が悪かったと思ったら、きちんとそれを謝りましょう。

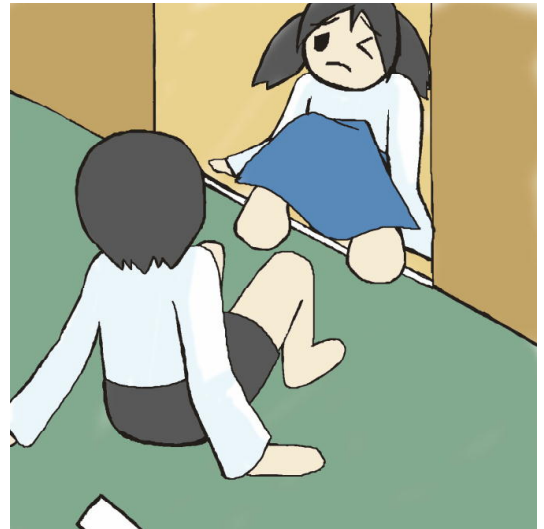
反対に、謝ってくれたときは、許してあげることも大切です。

そうすれば、けんかも随分少なくなるでしょうね。

すぐにあやまりたかったけど・・・

すぐにあやまればよかったなあ・・・
でも、^{いま}今さら言いに^いにくいなあ

ある日、^ひ走^{はし}って^{きょうしつ}教室^{はい}に入ろうと
したら、^{いりぐち}入口^こでひろ子^こさんとぶつ
かってしまいました。



そして、^こぼくもひろ子^こさんもたおれて、^{しりもち}しりもちをついてし
まいました。

みんなは「だいじょうぶ？」と^い言いなが
ら、^な泣^ないているひろ子^こさんのまわりにあつ
まって、^{おおさわぎ}おおさわぎになってしまいました。

だから、ぼくは、すぐにあやまることが
できませんでした。

どうしたらいいのかな？

題 材 「『やめて!』と言えなくて・・・」(対象:低学年)

1 ねらい

相手の嫌がることをすることは許されないことを理解させる

2 場面設定

授業中に後ろの人から鉛筆でつつかれる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、どう思いますか？

たかし君は、授業中に前の人をつついて、遊んでいますね。

では、つつかれた私はどうでしょうか？

□ 「やめて!」と言えずに、困っていますね。

毎日続くので、私はだんだん学校に行くのがイヤになってきています。

そのことを、誰にも相談できずに、一人で悩んでいます。

そして、とうとう、今日は学校を休んでしまいました。

□ たかし君は「遊び半分」でやっているとしても、私は学校に行けなくなるほど、イヤな思いをしています。

私は今日、やっとお母さんに話すことができました。

きっとお母さんも力になってくれると思います。

□ みなさん、「遊び半分」や「軽い気持ち」でやっていることが、もしかしたら友だちを傷付けているかもしれません。

一人ひとりが、友だちの気持ちを考えて、行動できることが大切です。

「やめて！」と言えなくて・・・

「やめて！」と言いたけれど
どうしても言えません・・・

じゅぎょう中に、後ろのせきの
たかしくんがわたしのせ中をえん
ぴつでつついてきます。

わたしは、「やめて！」と言いた
いけれど、どうしても言えません。

そのうち、学校に行くのがだんだんイヤになってきて、とう
とう今日は、お母さんにぐあいがわるいとウソをついて休んで
しまいました。

お母さんは、わたしのそばで、話を聞いてくれました。

母 「学校で何かあったの？」

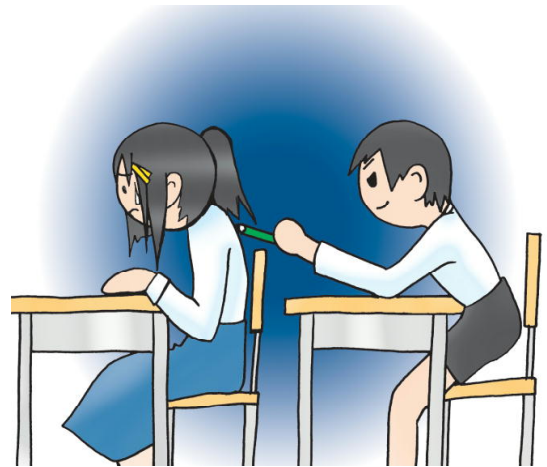
わたし 「・・・」

母 「このごろ、元気がないからしんぱい
していたのよ。」

わたし 「後ろのせきのたかしくんが、えんぴ
つでつついてくるのがイヤなの。」

母 「そんなことがあったのね。でも、よ
くがまんしてきたわね。」

わたし 「でも、がまんできなくなって、休ん
でしまって…お母さん、ごめんなさい。」



題 材 「ちょっとかりただけなのに・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

自分勝手な行動を慎み、友だちと仲よく生活することの大切さを理解させる

2 場面設定

消しゴムを勝手に使ってけんかになる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

ぼくとたろう君は、最後はけんかになってしまいましたね。

なぜ、けんかになってしまったのでしょうか？

□ ぼくは、「ちょっとくらいいいだろう」「けちけちするな」と言っていますね。

ずいぶん自分勝手な考えですね。

たろう君は、『かして』くらい言ってよ」と言っています。

自分のものを黙って他の人が使っていたら、いい気持ちはしませんね。

□ では、どうしたらけんかにはならなかったのでしょうか？

それは、ぼくが「これ貸してくれる？」ときちんと聞いたら、たろう君は、「いいよ」と気持ちよく消しゴムを貸すことができたのではないのでしょうか。

みなさんも、人からものを借りるときは「貸してね」ときちんと言いましょう。

そして、借りた後には「ありがとう」と言えるといいですね。

ちょっとかりただけなのに・・・

ちょっとぐらいいいじゃないか
そんなにおこらなくても・・・

自分のけしゴムが見つからなかつたので、となりのたろうくんのけしゴムをつかいました。

すると、たろうくんは、「かってにつかうなよ」と、とつぜんおこってきました。



たろう 「何でかってにつかうんだよ！」

ぼく 「いいじゃないか、ちょっとくらい。」

たろう 「人のものをつかうときは、『かして』くらいい言ってよ。」

ぼく 「そんなにけちけちすることないだろう。」

たろう 「けちだからい言ってるんじゃないよ。」

ぼく 「もういいよ、もうかりないよ！」

題 材 「みんなになんてあやまろうかな？」(対象：低学年)

1 ねらい

失敗を責めるのではなく、皆で助け合うことの大切さを理解させる

2 場面設定

給食準備の時、カレーの入れ物をひっくり返してしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む)

みんなが楽しみにしていたカレーがこぼれてしまって大変だね。

でも、わざとひっくり返したわけではありませんよね。

□ 周りの人の言葉をみなさんはどう思いますか？

「カレーが食べたかった」という気持ちはよく分かりますね。

でも、もうカレーは元には戻りません。

私がどんどん辛くなるだけです。

□ では、どうしたらいいのかな？

この話には続きがあります。

給食当番の友だちが、すぐに担任の先生に知らせたので、先生はとんできてくれたそうです。

先生は真っ先に「けがはない？大丈夫？」と声をかけて、心配されたそうです。

そのあと、他のクラスの先生に相談して、少しずつカレーを分けてもらって、みんな大好きなカレーを食べることができました。

□ その後、クラスみんなはどうしたと思いますか？

カレーを分けてくれたクラスの友だちに、みんなでお礼を言いに行きました。

もちろん、カレーをこぼしてしまった人は、心の底からクラスみんなにお礼が言えたそうですよ。

□ 失敗することは誰にでもあります。大事なことは、失敗したことを責めるのではなく、クラスみんなが助け合っていくことです。

みんなになんてあやまろうかな？

わざとじゃないのに・・・
どうすればいいのかなあ？

わたしたちの教室は2かいにあるので、きゅうしょくをはこぶのはたいへんです。

わたしは、きゅうしょく当番の時、かいだんでつまずいて、カレーのののを入れた入れものをひっくりかえしてしまいました。

「けがはない？」としんぱいしてくれた友だちもいましたが、大きわぎになって、みんなはいろいろなことを言っています。

「どうするんだよ！」

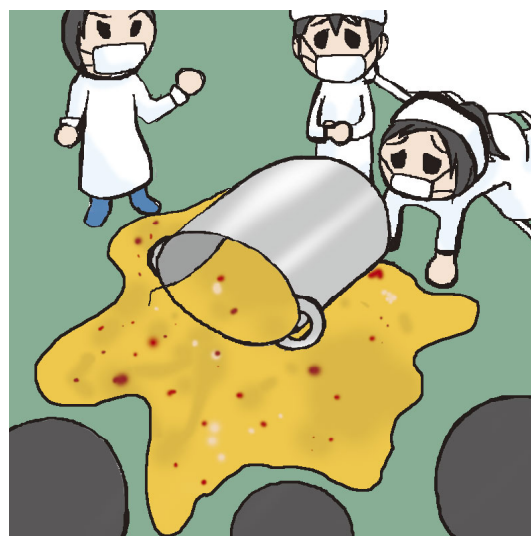
「ごはんだけでたべるの？」

「今日のカレー楽しみにしてたのに。」

「ちゃんと前を見てないからだよ。」

「あーあ、さいあく・・・」

わたしは、どうしたらいいのかなあ？



題 材 「先生に言ったほうがいいのかな？」(対象：低学年)

1 ねらい

善悪を判断し、正しく行動できるようにさせる

2 場面設定

家からゲーム機を持ってきている

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

男子は、「だって、楽しいもん」と言って、学校の約束を破っています。

ゲームが楽しいという気持ちは分かります。でも、学校にゲームを持ってくるとはよくないことですね。

□ 学校にはいろいろな約束がありますが、それはみなさんが安心して学校生活を送るためにあるのです。

もし、こんなことがあったら、「ゲームを持ってきたらいけないよ」と言ってあげましょう。

それでも聞いてくれないときは、先生に相談してください。

□ ゲームを持ってきていることを先生に伝えると、「先生に言いつけた」と言う人がいますが、それは間違いです。

言ってあげないと、間違っただけをずっと続けてしまうことになりますよね。

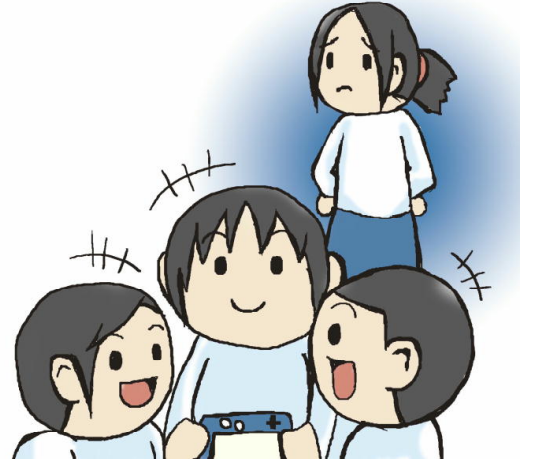
□ これからも、間違っただけがあれば、みんなで注意し合いましょう。

先生もみなさんの力になります。

先生に言ったほうがいいのかな？

がっこう
学校のやくそくはまもらないといけない
だまっておくのはイヤだな

やす じかん だんし たの はなし
休み時間、男子が楽しそうに話を
をしています。何かなとおもって近
くに行ってみると、家からゲーム
をもってきているのです。



「学校にはいらぬものをもつてきてはいけぬのに」とおも
っている・・・

だんし せんせい い
男子 「先生に言っちゃだめだよ。」

わたし がっこう
わたし 「学校にはいらぬものをもつて
きたらいけぬのよ。」

だんし たの
男子 「だって、楽しいもん。」

わたし 「でも・・・」

どうすればいいのかなあ？

題 材 「ちゃんとそうじしてよ！」(対象：低学年)

1 ねらい

皆で協力し、任された仕事は責任をもってやり遂げるようにさせる

2 場面設定

人に任せて掃除をしない

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みんなが「ちゃんと掃除して」と言うと、「わかった、わかった。」と言いながら、ちっとも掃除をしていません。

そんなとしお君をみなさんはどう思いますか？

□ 掃除は、学校でみんなが気持ちよく過ごせるように、みなさんや先生と一緒に、学校全体をきれいにするんですね。

もし、ゴミだらけの教室だったら、みなさん気持ちよく過ごせますか？

□ クラスには、いろいろな仕事があります。

例えば、毎日の給食の準備や係も仕事の一つです。

みなさんのおうちでも同じです。お風呂の掃除や夕食の準備など、いろいろなお手伝いをしていますね。

□ 「やりたくない」「めんどくさい」などと言って自分の仕事をしないと、みんなが困ってしまいますね。

学校でみんなが気持ちよく生活するためには、自分のやらなければいけない仕事を、きちんとやることがとても大切です。

ちゃんとそうじしてよ!

いつも女子にやらせて・・・
あそんでばかりでゆるせない

わたしたちのクラスでは、男女
4人ずつで教室のそうじをしています。

としおくんは、先生がいるときは
そうじをしますが、先生がいな
いときはみんなにそうじをさせて、あそんでばかりいます。
みんながちゅういしても、聞いてくれません。



みんな 「ちゃんとやってよ！」

としお 「わかった、わかった。」

(と言いながら、ぜんぜんやりません。)

みんな 「みんなの教室なんだから、みんな
なできれいにするのは当たり前でし
よう！」

としお 「ぼくはよごしてないよ。」

(そう言いながら、やっぱりそうじをしません。)

みんな 「・・・」

題 材 「ひとりぼっちはさびしい・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

友だちに素直な気持ちで接することの大切さを理解させる

2 場面設定

遠足で友だちと一緒に弁当を食べられるかどうか不安に思っている

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

仲よしのみさきちゃんとけんかをして、明日の遠足ではひとりぼっちにならないか心配していますね。

朝、目が覚めても、心配だね。

みなさんだったら、こんなときどうしますか？

□ 私は、みさきちゃんの顔を見たとき、「昨日はゴメンね」とすぐに謝ったそうですよ。

すると、みさきちゃんも「ゴメンね。私も心配で昨日は眠れなかったの。」と言ったそうです。

みさきちゃんも私と同じように、けんかをしてしまったことをすごく心配していたんですね。

□ 2人は、けんかをした次の日に、きちんと謝って、仲直りできました。それは、2人が自分が悪かったことに気が付いて、相手にその気持ちを伝えたからですね。

でも、「自分から謝るのは嫌だなあ」「謝ったら許してくれるのかなあ」「自分は悪くない」というような気持ちから、素直に謝ることができなくて、ずっとけんかが続いてしまうこともあります。

そうなったら嫌だよね。

□ 友だちとけんかすることはあります。

でも、そんなときは、お互いに謝って、仲よく過ごしたいよね。

ひとりぼっちはさびしい・・・

さそってくれるかな？
ひとりで食べるのはさびしいな



あす、遠足です。

みんなは楽しみにしているよう
ですが、わたしは今ふとんの中で
なかなかねむれません。

それは、今日の帰りに、なかよしのみさきちゃんとけんかを
してしまい、明日の遠足のおべんとうのときに、ひとりぼっち
にならないか、ふあんでいっぱいだからです。

「明日は遠足に行きたくないなあ。」

「ひとりぼっちはイヤだよ。」

「でも、前から楽しみにしていたし。」

あす
明日はうまくなかなかおりできるかな？

題 材 「さそってくれないかな？」(対象：低学年)

1 ねらい

周りの人にもしっかり目を向け、皆で楽しく過ごす方法を考えさせる

2 場面設定

教室で、皆の輪からはずれて、独りぼっちでいる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付する。)

みなさんは、この絵を見てどう思いますか？

輪になって話をしている人たちは楽しそうですね。

□ でも、独りぼっちの人は、どんな気持ちでしょう？

「さびしいなー」「みんなと一緒に遊びたいなー」・・・

そんな気持ちかな？

□ みなさんは、毎日、学校でたくさんの友だちと一緒に生活しています。

もし、一日中、誰も話かけてくれなかったら、どうでしょう。

先生だったら、とても寂しい気持ちになります。

□ 友だちと一緒に楽しく過ごすことは、みんなの願いだと思いますし、先生もそう願っています。

もし独りぼっちで寂しそうにしている人がいたら、「どうしたの？」「一緒に遊ぼう！」と声をかけてあげてください。

きっとその人は、みんなが誘ってくれることを待っていますよ。

さそってくれないかな？

みんなはいつも楽し^{たの}そう
わたしはいつもひとりぼっち・・・

